

要綱第3号様式

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | |
|---|--|---|----------------|----------------|----------------|----------------|-------------|
| (宛先) 京都市長 | | 平成29年7月26日 | | | | | |
| 報告者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) | | 報告者の氏名 (法人にあっては、名称及び代表者名) | | | | | |
| 大阪市北区中之島3丁目6番16号 | | 関西電力株式会社 取締役社長 岩根 茂樹 電話06-6441-8821 | | | | | |
| 主たる業種 | 電気業 | 細分類番号 | 3 | 3 | 0 | 0 | |
| 事業者の区分 | 京都市地球温暖化対策条例第2条第1項第6号 | <input checked="" type="checkbox"/> ア <input type="checkbox"/> イ又はウ <input checked="" type="checkbox"/> エ | | | | | |
| 計画期間 | 平成26年4月から平成29年3月まで | | | | | | |
| 基本方針 | 環境と関わりが深いエネルギー事業者として、社会から信頼される企業グループであるために、低炭素社会の実現に向けた取組みの推進に加え、循環型社会の実現に向けた活動の展開、地域環境保全対策の推進、環境管理および環境コミュニケーションの推進を環境行動方針として定め、環境管理に関する全社の具体的行動計画「エコ・アクション」を毎年策定し、これに基づき環境活動を進めています。 | | | | | | |
| 計画を推進するための体制 | CSR推進会議・環境部会（主査：常務取締役）を設置し、全社の環境管理に関する具体的行動計画の策定、チェックアンドレビュー等を行っています。また、社長を環境管理の責任者とし、環境室長が社長を補佐して全社の環境管理活動を推進し、関係各所の長は環境管理責任者として所管業務の環境管理活動を推進しています。 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出の量 | 温室効果ガスの排出の量 | 基準年度 (23~25)年度 | 第1年度 (26)年度 | 第2年度 (27)年度 | 第3年度 (28)年度 | 増減率 | |
| | 事業活動に伴う排出の量 | 6,237.3 トン | 5,993.7 トン | 6,388.9 トン | 5,968.3 トン | -1.9 パーセント | |
| | 評価の対象となる排出の量 | 6,384.4 トン | 5,993.7 トン | 6,388.9 トン | 5,968.3 トン | -4.2 パーセント | |
| | 実績に対する自己評価 | 空調の設定温度見直し等による電気使用量の削減、電気機器点検時のSF6ガスの回収率の向上等に取り組んだ結果、3%の削減を達成した。 | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 事業の用に供する建築物の用途 | 原単位の指標 | 基準年度 (25)年度 | 第1年度 (26)年度 | 第2年度 (27)年度 | 第3年度 (28)年度 | 増減率 |
| | 事務所 | 事業活動に伴う排出の量 (延床面積) | 5.39 | 6.01 | 5.93 | 6.02 | 11.07 パーセント |
| | | 事業活動に伴う排出の量 () | | | | | パーセント |
| | 実績に対する自己評価 | 空調の設定温度見直し等による電気使用量の削減に取り組んだが、事業所の移転や組織改正に伴う人員配置の変更等により原単位については増加した。 | | | | | |
| 重点的に実施する取組の実施状況 | | 基準年度 (25)年度 | 第1年度 (26)年度 | 第2年度 (27)年度 | 第3年度 (28)年度 | 備考 | |
| | | 138.0 パーセント | 146.0 パーセント | 146.0 パーセント | 153.0 パーセント | | |
| 具体的な取組及び措置の内容 | (26)年度 | 不要照明の消灯、空調の設定温度見直し、電気機器のSF6ガスの回収率向上に努めた。 | | | | | |
| | (27)年度 | 不要照明の消灯、空調の設定温度見直し、電気機器のSF6ガスの回収率向上に努めた。 | | | | | |
| | (28)年度 | 不要照明の消灯、空調の設定温度見直し、電気機器のSF6ガスの回収率向上に努めた。 | | | | | |
| 通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置 | 措置の内容 | 通勤に利用する一般交通機関が全くない場合や交替勤務者で一般交通機関の利用が事実上不可能である場合等、一定の条件を満たさない場合は、私有車通勤を認めていない。 | | | | | |
| | 上記の措置を実施した結果に対する自己評価 | 原則、一般交通機関による通勤を行っており、私有車による通勤は必要最低限とすることができた。 | | | | | |
| 森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量 | 区 分 | 第1年度 (26)年度 | 第2年度 (27)年度 | 第3年度 (28)年度 | 備考 | | |
| | 森林の保全及び整備によるもの | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| | 地域産木材の利用によるもの | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| | 再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| | グリーン電力証書等の購入によるもの | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| | 温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| | 合 計 | 0.0 トン | 0.0 トン | 0.0 トン | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・植樹活動や環境イベントへの出席、学校への環境出前教室など、お客さまや地域の皆さまのお役に立てる活動を実施しました。 ・ご家庭のお客さまに対して、お客さまのご要望に応じた省エネルギーコンサルティング活動や、インターネットを活用した電気ご使用状況やCO2排出量の見える化サービス「はびeみる電」のご紹介を実施するとともに、法人のお客さまに対して、最適なエネルギーシステムとその運用方法をご提案するなど、省エネ・省コスト・省CO2に貢献しました。 | | | | | | |
| 特記事項 | ・京都支社長名にて提出します。 | | | | | | |

注1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

注2 「細分類番号」とは、統計法第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。

注3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。

注4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。